

新規事業採択時評価結果（平成19年度 新規事業化箇所）

担当課：道路局 国道・防災課  
担当課長名：木村 昌司

事業の概要

事業名	一般国道219号 横野バイパス	事業区分	一般国道	事業主体	宮崎県
起終点	自：宮崎県児湯郡西米良村大字横野 至：宮崎県児湯郡西米良村大字横野			延長	3.2km
<p><b>事業概要</b></p> <p>一般国道219号は熊本県熊本市を起点とし、西米良村、西都市等を経由し宮崎市に至る幹線道路であり、地域の産業・経済を支えるほか、緊急輸送道路としても重要な路線である。</p> <p>当区間は、西米良村などの中山間地域と地方生活圏中心都市である宮崎市を結ぶ代替え道路の無い生命線道路であるが、連続雨量200mmの事前通行規制区間であるなど、早急な道路整備が必要な箇所である。</p>					
<p><b>事業の目的、必要性</b></p> <p>本路線は、宮崎県央地域と熊本県を結び、広域的産業活動を支える幹線道路であるとともに、西米良村と西都市や宮崎市を結ぶ唯一の道路であり、地域住民の生活を支える道路でもある。横野バイパスは、線形不良・幅員狭小による隘路区間を解消して、救命医療など沿道地域の生活と福祉の支援を目的としており、特に、台風等の異常気象時に発生している集落の孤立を解消して、道路沿線居住者に安全で安心な生活環境を提供することが急務である。</p>					
全体事業費	40億円	計画交通量	1,600台/日		
<p><b>事業概要図</b></p>					

**関係する地方公共団体等の意見**

地元の西米良村では、「第3次西米良村総合計画」で国道219号を西米良村の大動脈と位置づけ、防災対策の推進・地域の産業や経済を支える道路として、本路線の整備を急務として強く望まれている。

特に当該区間については、大きく迂回している区間であり、また災害も発生していることから、西米良村や改良促進期成同盟会等からも事業化が最も望まれており陳情・要望活動が頻繁に行われている。

**事業採択の前提条件**

費用対効果： 便益が費用を上回っている。

手続き等： 宮崎県公共事業評価委員会での新規事業の承認済みである。（平成18年5月）

事業評価結果

費用対便益	B/C	1.7	総費用： 34億円 事業費： 32億円 維持管理費： 2.3億円	総便益： 56億円 走行時間短縮便益： 49億円 走行費用減少便益： 6.1億円 交通事故減少便益： 1.3億円	基準年 平成18年
	感度分析の結果	交通量変動	B/C=1.8 (交通量+10%)	B/C=1.5 (交通量-10%)	
		事業費変動	B/C=1.5 (事業費+10%)	B/C=1.8 (事業費-10%)	
	事業期間変動	B/C=1.5 (事業期間+20%)	B/C=1.8 (事業期間-20%)		
事業の影響	評価項目		評価	根拠	
	自動車や歩行者への影響	渋滞対策	—	注目すべき影響はない	
		事故対策	—	注目すべき影響はない	
		歩行空間	—	注目すべき影響はない	
	社会全体への影響	住民生活	○	宮崎交通のバス路線（8便/日）、村営バス路線（4便/日） 救急医療施設へのアクセス向上 2次医療（西都救急病院）への搬送時間短縮：約80分 → 約75分（5分短縮） 3次医療（県立宮崎病院）への搬送時間短縮：約110分 → 約105分（5分短縮）	
		地域経済	—	注目すべき影響はない	
		災害	○	・災害による集落の孤立を解消し、安全で安心な生活環境の確保 （平成16年度 5日間の交通途絶：台風16号による異常気象） （平成17年度 1日間の交通途絶：台風14号による異常気象） ・第1次緊急輸送道路ネットワークの確保 ・防災点検要対策箇所3箇所の解消	
環境		○	CO2排出量が0.9千t-CO2/年削減される		
	地域社会	○	主要な観光地へのアクセス向上 （主要な観光地である西都原古墳群[年間入込客数100万人]と西米良村内観光施設[西米良温泉：年間入込客数7万4千人]とのアクセスが向上する）		
事業実施環境	○	宮崎県総合長期計画において位置づけ （県内1時間構想の実現のため、[地域交通ネットワーク]の整備を推進する）			

採択の理由

- ・費用対便益が【1.7】と便益が費用を上回っている。
- ・大型車すれ違い困難箇所が解消され、宮崎県と熊本県の広域ネットワークが確保される。
- ・第1次緊急輸送道路の機能確保により、沿線集落の孤立解消や救急医療施設へのアクセスが向上され、その整備効果は高いと判断される。
- ・以上より、本事業を採択した。

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。